

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
横浜デザイン学院		昭和53年3月31日		池田俊一		〒220-0051 神奈川県横浜市西区中央1-33-6 (電話) 045-323-0300																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人石川学園		昭和26年1月20日		池田俊一		〒220-0051 神奈川県横浜市西区中央1-33-6 (電話) 045-323-0300																					
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																				
文化・教養	服飾家政専門課程	ファッション科				平成15年2月19日文科科学省告示第21号	-																				
学科の目的	あらゆる事物のより良い形を創造するデザインを通し、服飾の基礎知識から専門知識迄の技能を習得し、職業もしくは実生活に必要な能力の開発と教養の向上を図ることを目的とする。社会のどこにあってもその立場立場においてなくてはならぬ人になり、仕事を通して世のため人のために貢献できる人になること。																										
認定年月日	平成 26年 3月 31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	2800時間	1200時間	1040時間	3840時間	0時間	0時間																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
40人		19	9	1人	8人	9人																					
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法																						
長期休み	■学年始:~4月1週目迄 ■夏季:7月第4週目~8月2週目迄 ■冬季:12月4週目~1月1週目迄 ■学年末:3月3週目~4月1週目まで			卒業・進級条件																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任及びキャリアサポートセンター、スクールカウンセラーによる個別面談、保護者面談			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) ・進学・帰国			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洋裁検定</td> <td>③</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ファッション販売検定2級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>パターン検定3級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日本語能力検定N2</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	洋裁検定	③	7	3	ファッション販売検定2級	③	1	1	パターン検定3級	③	1	1	日本語能力検定N2	③	3	2	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
洋裁検定	③	7	3																								
ファッション販売検定2級	③	1	1																								
パターン検定3級	③	1	1																								
日本語能力検定N2	③	3	2																								
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0%			平成30年4月1日時点において、在学者16名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者16名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由																							
	■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 個別面談、場合により保護者面談																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 <<全学生対象>> 学費分納制度…1年次2年次それぞれ3回に分けて学費を払うことができます。 <<留学生対象>> ①私費留学生入学時特別奨学金…全員15万円を減免致します。 ②私費留学生進級時特別奨学金…進級時1年次の出席率が良好だった(90%以上)学生に対して10万円を減免致します。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										

2. 就職等の状況(※2)

3. 主な学修成果(※3)

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の就業先の業界のトレンド(※1)を取り入れ、より実践的な教育カリキュラムを実行するために、改革改善を促す役割を果たす。また、授業における教員の創意工夫を評価し、教育の質の向上を目指す。委員会における委員の意見に対しては、財務状況や学校設備、学習環境、学生の習熟度を合わせて考慮し、次年度のカリキュラム編成に生かすものとする。 ※1主にアパレル業界の多様化するマーケットの状況に対応するPCの知識やスキル

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

(教育課程編成委員会組織規則第1条1項)職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う為に各専攻分野に関する企業、団体等(以下企業等)との連携体制を確保し、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等が参画する職業実践専門課程教育課程編成委員会(以下「編成委員会」)を設置する。委員会での審議を受けて修正が必要な場合は、専任教員にて再度検討を行い編成案を修正し再提案を行う。授業科目新規開設、授業内容や教育手法の改善、学修成果目標や評価方法の検討など教育の質、教職員の質向上を図ることを目的としている。この教育課程編成委員会は、専門課程全学科(ファッション科、総合デザイン科、マンガ科、総合日本語科、)が合同で行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年8月30日現在

名前	所属	任期	種別
古市輝子	株式会社TOPランゲージ	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	③
山内 涼子	かながわ国際交流財団	平成29年4月1日～令和3年3月31日(2年×1期目)	①
箕 悟	別府大学	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	②
河原政司	有限会社青史堂印刷	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	③
深澤恵美子	株式会社アパレルコンシェル	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	③
重本昌信	特定非営利活動法人文化行政サービスセンター	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	①
池田俊一	学院長	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	①
寺内有紀夫	副学院長 専門課程	平成27年4月1日～令和3年3月31日(2年×3期目)	①
児玉誠一	事務局長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年×1期目)	①
廣田洋平	高等課程長	平成29年4月1日～令和3年3月31日(2年×2期目)	③
佐々木貴行	専門課程総合デザイン科主任教諭	平成28年10月1日～令和3年3月31日(2年×2期目)	③
田島治樹	専門課程マンガ科	平成28年4月1日～令和3年3月31日(2年×2期目)	③
青木佳美	専門課程ファッション科教務課長	平成26年10月1日～令和3年3月31日(2年×3期目)	③
影嶋知香子	専門課程総合日本語科教務主任	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×3期目)	③
佐久間みのり	専門課程日本語学科教務主任	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	③
志村信生	国際センター長	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	③
安立宗広	生活課主任	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	③
横坂仁美	キャリアサポートセンター課長	平成28年4月1日～令和3年3月31日(2年×2期目)	③
田崎智恵子	専門課程ファッション科	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	③
吉田寿	専門課程ファッション科	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 8月1月

(開催日時(実績))

第1回 平成25年11月19日 15:30～18:00

第2回 平成26年1月28日 15:30～18:00

第3回 平成26年8月6日 15:30～18:00

第4回 平成27年1月28日 15:30～18:00

第5回 平成27年8月5日 15:30～18:00

第6回 平成27年1月27日 15:30～18:00

第7回 平成27年8月3日 15:30～18:00

第8回 平成28年1月25日 15:30～18:00

第9回 平成29年8月2日 15:30～18:00

- 第10回 平成30年2月6日 15:30～18:00
- 第11回 平成30年7月31日 15:30～18:00
- 第12回 平成31年2月6日 15:30～18:00
- 第13回 令和元年7月30日 15:30～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 委員会にて、ファッション業界では幅広いテクニカルスキルとコミュニケーション力が必要であると助言を戴き、シラバスに落とし込みました。テクニカルスキルではクラフト産学連携の開拓を実施し実践的な学びの場を設けたり、アパレルCADは1年次より実施するためにPCの台数を増やしてきました。コミュニケーションでは「伝わる話し方、聴き方、発話力」を身に付ける実践授業を行います。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 社会で活躍するために、専門分野のより実践的な教育を行う目的で、実習・演習を行う必要がある。校内・校外いずれの場合も、実社会の「仕事」に触れた実体験を、再び教育活動に活用する。また、実社会の仕事を通して、社会のルールや規律を学び、自身で踏み出す力やコミュニケーション力の修練の場となることを期待する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 ビジネスコース・・・企業より求められる「仕事(お客様の満足が得られる接客、接客場の清掃、企画など)」を通して、ビジネスレベルを経験し、接客力、プレゼン力の向上を図る。学修成果の評価は各課題ごとの評価に加え、実施期間終了後に5段階の総合評価、また担当者よりのコメント。
 デザインコース・・・企業より求められる「仕事(パターン、裁断、縫製、アイロン、小物製作など)」を通して、ビジネスレベルを経験し、造形技術力、プレゼン力の向上を図る。学修成果の評価は各課題ごとの評価に加え、実施期間終了後に5段階の総合評価、また担当者よりのコメント。
 知識の修得状況、態度、コミュニケーション能力等の評価項目をあらかじめ設定し、それぞれについて5段階評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
テクニカルアート	雑貨デザインの基礎知識、デザイン、製作技術、企画立案までを習得し、オリジナル商品の企画、製作を実施する。	・エアサンショップ
ソーイング	色・柄・形・素材などの総合的に見る目を養い、独創性のあるデザインバリエーションを研究し表現力、制作力を身に付ける。	・株式会社m & s
素材論	素材のすべてを現物のサンプルを参考にしながら、素材の名称・織物・その特徴・及び主な用途などについて、基本的な知識の導入を理論と感触を通して実施。	・有限会社ソルバインターナショナル
パターンメイキング	平面パターンと立体パターンとのパターンメイキング パターンの完成度と感性度の追求 続けられるだけの既製品における基礎知識を身に付け	・コモードデザイン事務所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 企業等と連携し、業界のトレンドを取り入れ、より実践的な教育カリキュラムを実行するため、また生徒に対する指導力等向上のために、研修諸規定に基づき学院長等が必要と認められた場合、専任・非常勤問わず参加する。年間計画としては、致知研修は毎月1回、それ以外の研修は年に5～10回程度参加する。回数は教員の実務能力や学生の問題に合わせて多少増減する。

(2)研修等の実績
 ①専攻分野における実務に関する研修等
 ①あの人は何故アクタスのファンになったのか 取締役 マーケティング本部長 大重 亨
 ...サポーターと呼べる「ファン」を増やす。実例マーケティング講座。参加者はファッション科青木佳美です。
 ②Made in Japan を世界に発信！(株)ビームス執行役員ビームス創造研究所 所長シニアクリエイティブディレクター南馬 越 一義
 ...ビームスが創る伝統的"モノづくり"とは。参加者はファッション科青木佳美です。

②指導力の修得・向上のための研修等
 ①致知研修
 ...月1回、校内において、多様化する学生に対応するため、及び教職員の人間力向上のために月刊「致知」を読んだの討論会を、致知出版の方を交えて、実施している。参加者は教職員全員です。
 ②「退学者を伏せぐために、今求められるもの」講師・法政大学 キャリアデザイン学部教授 廣川 進 先生
 ...2018年7月16日現代の学生気質求められる支援・対応策をメンタルヘルスの視点から考える。参加者は寺内有紀夫副学院長、ファッション科青木佳美、総合デザイン科佐々木貴之、マンガ科田島治樹です。
 ③「実践行動学プログラム」講師・実践行動学研究所 五十嵐・和田
 ...2018年7月16日アクティブラーニングと実践行動学・自分への信頼を取り戻すために。参加者は寺内有紀夫副学院長、ファッション科青木佳美、総合デザイン科佐々木貴之、マンガ科田島治樹です。
 ④「SDGsカードゲームワークショップ」研修 (株)ソーシャルキャピタルマネジメント代表取締役社長 小林博之
 ...2018年9月27日持続可能な開発目標のポイント同時解決を目指すとは 参加者は教職員全員です。
 ⑤「2018年未来予測 ～未来はどのように変わるのか?」(株)ソーシャルキャピタルマネジメント代表取締役社長 小林博之
 ...2018年9月28日アートの世界は、デザインの世界は、教育の世界は 参加者は専任講師、兼任講師です。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等
 ①2020/21秋冬トレンド情報 伊藤忠ファッションシステム(株)
 ...シルエットや素材、カラー等にフォーカスしたシーズントレンドセミナー
 ②秋元 梓 特別トークショー
 ③客単価・成約率・顧客満足度を同時に2倍にする方法 日本販売士協会
 ...欲しい商品を購入するならネットで十分な現代に、実店舗の存在意義を見いだすには

②指導力の修得・向上のための研修等

- ①「木鶏会」学内研修
 …月1回、校内において、多様化する学生に対応するため、及び教職員の人間力向上のために月刊「致知」を読んでの討論会を、致知出版の方を交えて、実施している。参加者は教職員全員です。
- ②初年次教育セミナー 株式会社 進研アド
 …新入生の基礎学力不足、学習意欲の低さを原因とした退学者の防止。低学力層への効果的なアプローチ方法

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

さらなる教育活動その他の学校運営の改善に取り組むため、企業等の関係者が専門課程全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、自己評価の結果を提供し、その評価結果を基に教育活動その他の学校運営の改善に資するものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか 2 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 3 学校における職業教育の特色は明確になっているか 4 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか 5 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)
(2) 学校運営	1 学習サービスを受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか 2 利害関係者が不満を抱えている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか 3 ニーズ調査結果に基づき学習サービスの目的を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか 4 評価報告書はわかりやすく、結論を導き出すに至った観点、手順及び根拠が明確に記述されているか 5 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか 6 人事、給与に関する制度は整備されているか 7 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 8 文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか 9 目的等に沿った事業計画が策定されているか 10 教育理念・目的などに沿った教育品質方針が、年度目標、運営組織、キーププロセスなどとともに、事業計画に盛り込まれているか 11 事業計画に沿った運営方針が策定されているか 12 教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか 13 事業継続に関するリスクを特定、評価、管理することが理事会・評議会の議題にあがっているか 14 教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか 15 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 16 「苦情及び相談対応窓口」を設置し、その運営を管理するとともに、利害関係者に周知しているか 17 教育活動に関する情報公開が適切になされているか 18 情報システム化による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動その1	1 各学科の到達目標を設定するために、高校生や高等学校教諭、求人企業の方、保護者などを対象に業界の動向やニーズ調査をしているか 2 言語、文化、読み書き能力に関するニーズや障がいに関する特別なニーズを特定しているか 3 学力の不足に関する特別なニーズを特定し、対応しているか 4 学生の前提スキルや要件の妥当性について見直すために必要な情報をアンケートやヒアリングなどで収集しているか 5 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 6 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 7 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 8 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか 9 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 10 Can-Doを意識した各コマの授業シラバスが作成されているか 11 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 12 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 13 企業・施設等での職場実習がある場合、「実習の手引き」または仕様書などで、利害関係者の役割及び責任を明確にしているか 14 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか 15 シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に明示されているか 16 講義(授業)や実習への出席など、学生の義務と責任について、学校案内や受講規約によって説明しているか 17 学習サービスの履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか 18 シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか(シラバスあるいは講義要項に評価の方法とスケジュールを掲載) 19 実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか 20 学生によるアンケートなどで、授業評価を実施しているか

(3)教育活動その2	<p>21 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 22 当該職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか 23 評価の過程において、差別的行為や恣意的な操作を排除するための対策を講じているか(学生評価及び教職員やカリキュラムの評価) 24 評価のために収集する情報(テスト、アンケート等)は、評価範囲を網羅し、信頼性があり、有効なものとなっているか 25 評価における偏りを減らすために、適正な処置を講じているか 26 閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか 27 授業評価の実施・評価体制はあるか 28 上記の評価者を選定している基準が明確になっているか 29 教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか 30 学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか 31 教職員(事務部門を含む)それぞれの職務分掌が、職務記述書のような形で文書化されているか 32 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 33 上記の職務記述書は、適切な間隔でレビュー(見直し)されているか 34 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか 35 教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価(又はレビュー)し、それらの評価結果(又はレビュー結果)を記録しているか 36 評価結果に基づく教職員面接(非常勤を除く)を実施しているか 37 評価結果のフィードバックを踏まえて、意欲や仕事の満足度について教職員からフィードバックを得ているか 38 職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) 39 評価手順は、授業等を提供するチームのコンピテンシーを考慮しているか(過不足が生じないよう、必要なコンピテンシーを定めているか) 40 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</p>
(4)学修成果	<p>1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 2 全体的及び具体的な評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか 3 学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか 4 成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか 5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p>
(5)学生支援	<p>1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 2 学生相談に関する体制は整備されているか 3 保護者と適切に連携しているか(例えば、就職させることを目的としていることを確認し、資格取得やビジネスマナー、マインドの醸成に努めるなど) 4 社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 5 卒業生への支援体制はあるか 6 図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか 7 担任以外に学生の健康管理・メンタルヘルスについて相談できる担当者がいるか 8 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 9 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 10 課外活動に対する支援体制は整備されているか 11 学生の生活環境への支援は行われているか 12 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</p>
(6)教育環境	<p>1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 2 学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか 3 教職員に対して、学習指導のための訓練や避難訓練を実施しているか 4 防災に対する体制は整備されているか 5 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p>
(7)学生の受入れ募集	<p>1 履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか 2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 3 学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) 4 学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか 5 評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか 6 学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか 7 学納金は妥当なものとなっているか</p>
(8)財務	<p>1 財務について会計監査が適正に行われているか 2 財務情報公開の体制整備はできているか 3 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 4 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p>
(9)法令等の遵守	<p>1 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 2 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 3 自己評価(内部監査)の実施と問題点の改善に努めているか 4 監査やISO 29990の知識を有する適任者により適切に監査され(自部署の監査を行わず)、当該部署の責任者に監査結果を報告しているか 5 内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか 6 内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか 7 自己評価結果を公開しているか</p>
(10)社会貢献・地域貢献	<p>1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</p>

(11)国際交流	1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか 2 受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか 3 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか 4 学内で適切な体制が整備されているか
----------	--

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

地域に開かれた学校にしてほしいというご意見をいただき、学校行事への招待状を出すようになりました。企業の方はご自身の体験からISOに関してはしっかり準備して望まれるべきとのご意見をいただきました。卒業生からは同窓会があれば社会に出てからでも情報交換できる機会になるという意見をいただき同窓会組織の立ち上げを準備しています。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
高島 浩二	株式会社高島商店	平成25年4月1日～平成31年3月31日(2年×3期目)	地域代表
片野坂 達也	佐川印刷株式会社	平成25年4月1日～平成31年3月31日(2年×3期目)	卒業生
花井 秀年	DOORS合同会社	平成25年4月1日～令和3年3月31日(2年×4期目)	企業役員
栗田 秀子	千代田国際語学院	平成25年4月1日～平成31年3月31日(2年×3期目)	在校生母校の経営者
山口 禎子	山口会計事務所	平成25年4月1日～平成31年3月31日(2年×3期目)	会計士

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:<http://www.ydc.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

1. 組織的な連携強化

企業等と連携し、学院が有する情報を前期・後期と年2回報告するように努める。

2. 学院の課題解決

学院の発展に寄与するため、企業が学院が抱える課題解決を行うために企業が学院に対してその情報を求めた際は、学院は問題解決に関する情報を可能な限りホームページ等において広く情報提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	所在地、連絡先等、学校沿革、学校の特色(教育活動、カリキュラム、学校の教育目標)
(2)各学科等の教育	定員数、カリキュラム(科目編成)、時間割、就職先一覧、進学先一覧
(3)教職員	各科主要科目担当
(4)キャリア教育・実践的職業教育	産学協同プロジェクト、キャリアサポートシステム
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、社会貢献活動等の状況、施設、設備、学習環境
(6)学生の生活支援	学生寮の紹介、キャリアサポートセンター
(7)学生納付金・修学支援	募集要項
(8)学校の財務	横浜デザイン学院事業計画書、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	学院自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	日本人学生との交流と国際交流イベントなどの積極的な参加
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.ydc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(専門課程ファッション科) 平成31年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デジタル実習	PCを使用してのグラフィック実習。デジタル、アナログでのラフ画、オリジナルの柄などを制作していきます。	1通	160			○					○	
○			デザイン画	ファッション業界における作画技術の習得。デザインの発信力を身につける。	1通	80			○	○				○	
○			ショッピングプランニング	購買動向、業界の概略、業界の実情、ビジネスの基礎知識、ファッション造形知識等、業界概要の知識を習得する。	1通	80		○	○		○		○		
○			素材論	素材の全てを現物のサンプルを参考にしながら、素材の名称・織物・その特徴・及び主な用途などについて、基本的な知識の導入を理論と触感を通して実施する。	1通	80		○	○		○			○	○
○			ソーイング基礎	専門用語を理解し生地素材、裁断、印付け、針と糸の選定、基本的な縫製ならびにアイロンのかけ方、丁寧に仕上げる知識を習得する	1通	80				○	○			○	
○			ソーイングI	衣服の構造を理解し、基本的な衣服のデザインに合う素材、特徴、取り扱いを学び、実物の製作を通して縫製工程および基礎的な製作技法を習得する	1通	80				○	○			○	○
○			PCリテラシー	PC全般の知識から学び、クリエイターとして使用する上でのPCの専門知識を学ぶ。ハード、OS、アプリケーションの各役割の理解を深める。	1通	80				○	○			○	
○			アパレル研究I	ブランドを立案のベースとなる考えを理解し、商品企画を行う。協働力、リーダーシップを身に付け、チームで活動するマネージメント力の一端を体感する	1,2通	160		○			○			○	
○			Webリテラシー	「デザインする」仕事に必要な、コンピュータとコンピュータネットワークの基礎知識。コンピュータとコンピュータネットワークを利用して仕事をするために必要な、技術の習得。	1通	80				○	○			○	

○		デザイン画	ファッション業界における作画技術の習得。デザインの発信力を身につける。	1通	80					○	○							○	
○		パターンメイキング	パターンメイキングにおける基礎知識、製図実習と理論を理解する。	1通	80					○	○							○	○
○		ファッション表現理論	トレンドを意識し、商品知識、品質管理、衣服の手入れ方法、体型別による色および柄、素材の選定、トータルファッションの提案ならびに自己体型分析と自己表現手法を習得する	2通	80			○	○		○								
○		ファッション表現技術	スタイルを良く見せる生地加工、染色方法、直線及び曲線を利用したファッションアイテム製作ならびに多種多様な色、柄、模様による錯視効果を研究し習得する	2通	80					○	○							○	○
○		ソーイング	一年次に習得した基礎を生かし、各自のデザインを形にできる力を身につける。	2通	160					○	○							○	○
○		企画・プレゼンテーション	ドローイング力、パターンの理解力だけでなく、ブランディングやプレゼンテーションスキルを磨き、ファッション業界のリーダーとなるべく人材を「実践的な指導により育てる。	2通	160					○	○							○	
○		パターンメイキング	平面パターンと立体パターンとのパターンメイキング。既製服における基礎知識、パターンの完成度の追求、服作りの姿勢を学ぶ。	2通	80					○	○							○	○
○		ドレーピング	ボディに布を当てて、洋服のシルエットを表現して型紙を作る立体裁断の技術の基礎を学ぶ。	2通	160					○	○							○	
○		テクニカルアート	一年次に習得した基礎を生かし、シルバークラセサリーやネクタイ等ファッションアイテムの製作を学ぶ。	2通	160					○	○							○	○
○		PC演習 I Web基礎	HTML5規格に準拠した、Webページの作成。HTML5規格で用いられる、HTMLタグの使い方。Webページ作成に必要な、CSSの取り扱い。	1通	80					○	○							○	
	○	選択ドレーピング	ボディに布を当てて、洋服のシルエットを表現して型紙を作る立体裁断の技術の基礎を学ぶ。	1通	80					○	○							○	
	○	選択マーケティング	「マーケティング」の必要性、売れる仕組み、消費者心理、作った製品をどう売るかといったマーケティング戦略を学ぶ。	1,2通	80			○			○							○	
	○	選択クリエイターズリテラシー	クリエイター職における現場で必要とされる知識を学ぶ。基本的な美術の知識からデザイン業界で会話の中に出てくる作家たちの作品やデザインの歴史を学ぶ。	1,2通	80			○			○							○	

○	選択PC実習デジタル表現	pcを使ってグラフィックデザインを基礎から学ぶ。デザインの基礎をデジタルについても理解する	1,2通	80					○	○								○	
○	選択美術演習キャラクター研究	自由な発想で数多くのキャラクターを造りだすことを目標とする。	1,2通	80				○											
○	選択美術演習クラフト	雑貨、小物製作を通して、様々な素材の種類、性質、扱い方、機器工具、用具の使い方、名称を学習する。	1,2通	80				○		○								○	
○	選択情報リテラシー	オフィス仕事で活用するために必要なPCスキルを身につける。	1,2通	80				○											
○	選択時事	政治・経済・地域の最新の話題についてを新聞、ニュースなどから選別して現在の社会情勢について学ぶ。	1,2通	80				○			○							○	
○	選択日本語能力試験対策	日本語能力試験N2レベルからN1合格した超級レベルまで習熟度に合わせて選択し、練習問題等の演習を繰り返す。	1,2通	80					○		○							○	
○	選択クラフト	雑貨、小物製作を通して、様々な素材の種類、性質、扱い方、機器工具、用具の使い方、名称を学習する。	2通	80						○	○							○	
○	選択テクニカルアート	ペンケースやバッグ等身近な小物の製作を基礎から学ぶ。	1,2通	80						○	○							○	○
○	選択PC基礎	パソコン検定の内容を理解し、PCスキルの習得と検定合格を目指す。	1,2通	80						○	○								
○	選択マンガ実習キャラクター制作	キャラクター制作を基本としたアナログ制作作業手順の習得と、モノクロ、カラーイラスト制作の実習。	1,2通	80						○	○							○	
○	選択漫画講義PCリテラシー	マンガ制作におけるデジタル導入の現状について理解し、コミックスタジオによるデジタルマンガ制作技術を学ぶ。	1,2通	80				○		○	○							○	
○	選択就職リテラシー	就職活動に必要な資料の作成、応募方法などについてを実践を交えて学ぶ。	1,2通	80				○			○							○	
○	選択養成演習	日本語の教師となる為の基本的な素養と知識を学ぶ	1,2通	80				○											
○	選択日本語	応用日本語について学ぶ	1,2通	80				○			○							○	

○	選択マンガ デザイン	キャラクターと背景を正確に描く遠近法の 技術を学ぶ。	2 通	160					○	○								○
○	選択漫画講義 パースデザ ン作法	写真や資料から情報を整理したマンガ背景 の制作と背景作画に必要な間作力の養い方 について学ぶ。	3 通	80		○			○	○								
○	選択表現演習 プレゼン技法	2年次における大切な作業にポートフォリオ の制作があります。授業としてだけでなく クリエイターとして就職する為の大事な条 件になるので、しっかりとしたポートフォ リオの制作をサポートします。	2 通	160					○	○								○
○	選択基礎美術 イラスト	コース選択授業としてよりたしかなイラスト 表現力を身に付け、商業イラストレー ターとして独立を目指します。自分のイラスト 表現を理解しよりたしかな技術で作家 としても活動できるだけのスキルと意識を 持たせます。	2 通	160					○	○								○
○	選択基礎美術 表現技法	美術の立場で造形物における自己表現を テーマに授業を進めます。作品性の高い制 作物を創りだします。	2 通	160					○	○								○
○	選択PC演習 Web基礎	・Webとメディアの特徴、基本的な仕組みに ついての理解を深め、伝えたい情報を判り やすく表現するための基礎的な知識と技術 を習得する ・ネットワーク社会におけるモラルの大切 さを理解させ、正しい使用が出来ることを 習得する	1 通	80					○	○								○
○	選択PC演習 Webプラン ニング	動的なWebページの作成に必要な、jQuery、 PHPを知り、動的なページを作成。	2 通	160					○	○								○
○	選択PCリテラ シー	DTP技術と印刷の仕組み、CTP印刷における デジタルデータのあり方を理解する。	2 通	80		○				○								○
合計			66科目			6080単位時間(単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	40週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。